

1. 実験概要

駅に接続する路線バスが無く、二次交通が不足している宮ノ陣地区において、シェアサイクル等の多様なモビリティやパブリックスペース(憩いや賑わいづくりの空間)を配したモビリティ・ハブを整備し、公共交通の利用促進や地域内の回遊性の向上等の効果を調査分析し、モビリティ・ハブの導入可能性を検証する。

2. 今年度の調査内容、調査結果

(1) モビリティ・ハブの導入可能性調査

各モビリティの利用動向調査

利用回数や移動経路・範囲について把握

通勤・通学者の行動変容調査(事前)

属性や移動手段、公共交通の利用意向等を把握

(2) 交通渋滞の緩和に対する効果検証

周辺道路の交通量調査(事前)

従前の交通量について把握



導入モビリティ



モビリティ・ハブの現況(野菜販売の様子)

◀ シェアサイクルの利用動向調査

(次頁へ続く)

3. 意見と対応

| 有識者等からの意見 | 意見への対応 |
|--|---|
| 公共交通を利用する上での課題の一つは待ち時間。パブリックスペースの有効活用により、モビリティ・ハブの有用性を確認されたい。 | 地域と連携し、賑わいづくりに向けた検討を進めており、モビリティ設置との相乗効果を発揮したい。 |
| 公共交通への転換という視点では「脱炭素」の観点から定量的に測定することができれば、取り組みの意義が深まるのではないかと。 | 公共交通への転換を図るうえでは地域企業の協力が不可欠。「脱炭素」の観点も含め、地域企業と協議を進めたい。 |
| 道路に面した場所にハブを設置する意義や道路施策にとっての利点を発見できるとよい。 | 移動の効率性の向上や環境負荷の軽減とともに、道路のコミュニケーション空間としての機能の観点でも検証を進めたい。 |
| モビリティ・ハブの機能、ターゲットについてももう一步踏み込んで整理し、誰の便益に対してどれくらいの収入が見込まれるのか整理するとより良くなると思う。 | 通勤・通学時間帯に合わせた地域小売店の出店など、事業の継続性、収益性を念頭に、ターゲットユーザーを意識した事業展開を図りたい。 |
| モビリティ・ハブで地域の方々と一緒にイベントを行うと地域の方の愛着がわくと思うので、色々な取組を仕掛けていくことが必要である。 | 現在、地域コミュニティを通じて地域の小売店や小学校と連携した取組を進めているところで、今後も地域と協働し事業を進めていきたい。 |

4. 次年度の社会実験メニューとその内容、スケジュール

| 実験メニュー | 実験内容 |
|------------------------------------|---|
| モビリティ・ハブの導入可能性調査(各モビリティの利用実態) | モビリティデータを蓄積・分析し、各モビリティの効果的な配置による二次交通の活性化、地域内の回遊性の向上を図る。各モビリティの適合性を検証する。 |
| 公共交通の利用促進効果の検証(公共交通の利用実態・公共交通への転換) | 事業者の利用データやアンケート調査結果から、公共交通の利用促進の観点からもモビリティ・ハブ整備の効果を検証する。 |
| 交通渋滞への影響調査 | 交通量調査結果や人流データ等の活用により、周辺道路の交通量への影響、渋滞緩和に対する効果を検証する。 |

<スケジュール>

- | | |
|--------------------------------|----------------------------|
| ➤ R8年4月～11月 実証実験の継続、モビリティデータ収集 | ➤ R8年11月 事後アンケート調査・交通量調査 |
| ➤ R8年4月～5月 中間アンケート調査・分析 | ➤ R8年12月～令和9年2月 データ分析、実績報告 |

5. 評価

- 順調に実験が進んでいる。
- 次年度の実施内容が具体化されているため、継続して実験を行うことが妥当と考える。